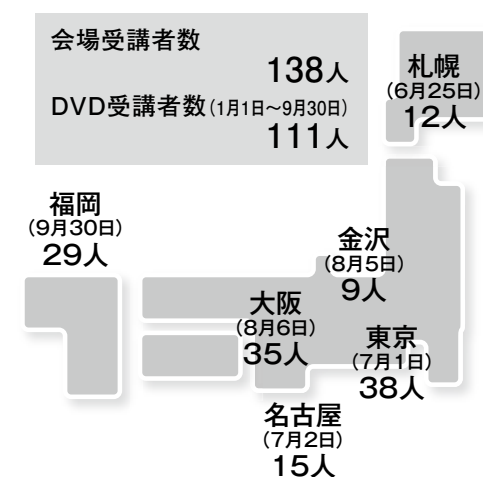


2017年度「栄養経営士」資格認定基礎講習終了 会場受講者、累計1000人を突破!

◆2017年度基礎講習修了者数



2017年度基礎講習修了者 249人

今年度の基礎講習も、栄養経営の基礎知識や栄養経営士としての姿勢を説く、宮澤靖代表理事による講義が中心となった。栄養部門の現状分析、目標達成に向けた実践的アプローチ、アウトカム分析、組織マネジメント、病態の把握能力など、栄養経営の視点を養うための講義が、丸1日をかけて行われた。

「栄養部門が経営にどう寄与しているかという視点で業務を振り返ることができた」、「病態把握の知識をもっと

深める必要性を感じた」など、これまでとは異なった視点を持つことで、管理栄養士として前進するきっかけをつかむ参加者も多く見受けられた。

会場受講では、宮澤代表理事から直接講義を受けられるのが何よりの魅力。時には宮澤代表理事から意見を求められることもあり、どこの会場も、参加者たちの熱気、緊張感、そして一体感であふれていた。

この3年間（2015～2017年）で、

全国6か所で基礎講習を開催、1338人が受講講習修了者の累計は1301人に!

6月25日に札幌会場からスタートした2017年度「栄養経営士」資格認定基礎講習（以下、基礎講習）。札幌、東京、名古屋、金沢、大阪、福岡と全国6会場で開催し、1338人が受講した。同講習は2015年にスタート。3年間で会場受講修了者の累計は1083人となった。DVD受講者と合わせた基礎講習修了者の累計は1301人になる。

基礎講習修了者が栄養経営士となつて活躍し始めたことで、栄養経営の考え方が、医療・介護業界に少しずつ広がりは始めているようだ。

宮澤靖代表理事からメッセージ 栄養経営の視点で、 医療介護を支える 管理栄養士をめざそう!



これまで、管理栄養士にとって「栄養経営」という考え方はあまり馴染みのないものでした。それを、こんなにも多くの方に受け入れていただき、また、企業の皆さまが法人賛助会員などの形で支えてくださったことに、とても感謝しています。

少子高齢化が加速していますが、高齢化は患者の増加に直結し、少子化は納税者の減少につながります。これまでのように薬に頼ってばかりでは、財政破綻は目に見えています。厚労省も「医薬品から食品へ」と言っているとおり、医療費削減のカギは「栄養」にあると考えます。われわれ管理栄養士は、その一翼を中心となって担うことができる職種なのです。

栄養経営士の育成の柱は、「マネジメント力の養成」と「患者を診る臨床能力の向上」の2つです。ビジョンを持って計画的に栄養部門を運営し、臨床能力を備え、力ある若手を育てていける管理栄養士。それが、栄養経営士です。

基礎講習を修了した皆さんは、これからの医療介護を支えていく人材として、スタートラインに立った方々です。必要な人が、必要なときに、きちんと栄養サポートを受けられる社会を、共に築いていきましょう!

基礎講習修了者累計

会場受講者数	1,083人
DVD受講者数	218人
修了者累計	1,301人

「栄養経営士」資格認定試験

第5回試験

11月26日(日)

※受験エントリー受付終了

第6回試験

2018年 6月10日(日)

受験エントリー期間(予定)

2018年 3月16日～5月11日

会場受講修了者の累計は1083人となった。栄養経営の視点を身に付けた管理栄養士の増加は、栄養業界全体のレベルアップにもつながっていくことであらう。11月26日には第5回「栄養経営士」

資格認定試験が予定されておられ、来年6月の試験日程も決まった。基礎講習を受講しただけで終わってしまっても構わない。基礎講習修了者の皆さん、ぜひ、栄養経営士への挑戦を!

2018年度診療報酬・介護報酬同時改定に備える!

第8回 摂食・嚥下リハビリテーションと栄養ケアセミナー 嚥下調整食のリスク管理と栄養指導の実践

11月4日(土) 10:00～15:30

講演1:在宅で管理栄養士に望む栄養指導のあり方

講演2:在宅での摂食嚥下障害患者への栄養指導の実践

講演3:摂食嚥下障害の病態と嚥下調整食

講演4:嚥下調整食のリスク管理

菊谷 武先生(口腔リハビリテーション多摩クリニック院長)

中村育子先生(福岡クリニック在宅栄養課課長)

藤島一郎先生(浜松市リハビリテーション病院院長)

柏下 淳先生(県立広島大学教授)

来年度のW改定では、在宅に向けた取り組みが高く評価されることが予想されます。本セミナーは、在宅を見据え具体的にどのような栄養指導を実践すべきか、摂食嚥下リハビリテーションの領域でご活躍されている方々にご講演をいただきます。

会場: 大和ハウス工業株式会社東京本社2階
(東京都千代田区飯田橋3-13-1)

参加費: 会員: **3,000円**(税込)、その他一般: 5,000円

定員: 300人 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

主催: 『ヘルスケア・レストラン』『栄養経営エキスパート』

くわしくは [日本医療企画](#) 嚥下セミナー [検索](#)

【お問い合わせ・お申し込み先】 株式会社日本医療企画 TEL03-3256-2885 (担当: 平山・原田)

栄養経営士スペシヤル鼎談

診療報酬・介護報酬同時改定でどう変わる？

急性期病院・老健・特養における
栄養管理の課題とアウトカム

来月4月、診療報酬と介護報酬の同時改定が行われる。この改定では、「医療と介護の連携のもとに、在宅で療養している高齢者に対する取り組みを重視する」内容になることが予想されている。

そのなかで、病院や高齢者施設に勤務する管理栄養士には、どのようなことが求められていくのだろうか？

急性期病院、介護老人保健施設(老健)、特別養護老人ホーム(特養)に勤務する3人の栄養経営士に話し合ってもらった。

急性期から看取りまで
ゴールが異なる栄養管理

まずは、皆様の所属施設のご紹介をお願いします。

森 私が在籍しているのは、700床を擁する埼玉医科大学国際医療センターで、がんと心疾患、脳血管疾患や外傷などの救急患者の治療を中心とした超急性期医療を提供している。

阿部 当施設は入所1



医療法人社団伊純会グループ
介護老人保健施設スカイ 管理栄養士
日本栄養経営実践協会関東支部理事

阿部 咲子さん

42床、通所1日37床の老健です。毎月の在宅復帰率は、3割から5割を推移しています。当施設に入所される方の約9割が急性期病院からの紹介です。森さんがおっしゃったとおり、急性期病院から入所される方はもとも栄養状態が悪いうえ、周術期に寝たきりになっていくことでサルコペニアが進行し、

重症な栄養状態で紹介されてきます。経口摂取や自力排泄が難しい方も多く、そうした方々をどうケアして在宅復帰していただくか、難しい課題を抱えています。

大久保 当施設は80床の特養です。5年前から看取りケアを行っており、年間20名前後が退所されますが、そのうちの4分の3が施設内での看取りとなっています。

——それぞれの施設で栄養管理のゴールをどう設定していますか？
森 当センターの平均在院日数は14日程度です。この期間でほとんどの患者さんが侵襲性の高い手術を受けて退院されます。当然ですが、術後は高度侵襲を受けて異化亢進し、栄

養状態が低下します。約14日という短期間でこの栄養状態を改善させることは困難です。で、栄養管理のゴールとしては「現在の栄養状態をできるかぎり維持すること」になります。

この14日間に早期に循環動態を安定させて栄養管理を行い、消化管を動かすことで免疫力を維持し、早期離床につなげていくことが、栄養状態の維持にとって非常に重要となります。

阿部 当施設では、事前に入所予定者が入院している病院にうかがい、在宅復帰なのか看取りなのか、ご家族の希望をうかがったうえで、ご本人の病態や全身状態、栄養状態を評価し、どこまで改善できるかを考え、ケアの目標を決めています。



ヘルスケア・レストラン特別セミナーで経口摂取の実践を学ぼう！

経口摂取の実現に向けて地域で輝く

いま求められる管理栄養士のスキルと知識

～急性期と在宅における高齢者の栄養管理～ in 盛岡

11月23日(木・祝)
13:00～16:30(予定)

※開催日や講師、内容等はすべて予定です。都合により変更する場合がありますのでご了承ください。

講演1

テーマ：在宅高齢者の栄養障害と栄養管理のポイント(仮)
講師：中村 育子先生(福岡クリニック在宅栄養課長)

講演2

テーマ：在宅訪問栄養指導と地域における多職種連携(仮)
講師：塩野崎 淳子先生(むらた日曜外科・WOCクリニック在宅訪問管理栄養士)

会場

アイーナ いわて県民情報交流センター
(岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1) JR・IGR「盛岡駅」より徒歩4分

参加費

日本栄養経営実践協会会員:3,000円(税込)
その他一般:5,000円(税込)

【お問い合わせ・お申し込み先】 株式会社日本医療企画 TEL03-3256-2885(担当:平山)



社会福祉法人北野会
特別養護老人ホームマイライフ徳丸 主任管理栄養士
日本栄養経営実践協会関東支部理事

大久保 陽子さん

なって廃用が進行し、退院後はかえってADLが低下します。そうしたリスクを低減して

各施設でめざすべき
栄養管理のアウトカム

——日々の業務においてどのようなところに栄養管理のアウトカムを求めていますか？

森 14日間という短い期間でアウトカムを明示することは非常に難しいと思います。私たちは急性期病院の使命は、手術や治療した患者さんの病態をできるだけ安定させて、回復期や療養期の施設にご紹介することです。したがって栄養管理においても、静脈栄養から経腸栄養、可能であれば経口摂取への移行を図り、できるだけ療養しやすい栄養状態にし

いくことも、栄養ケアの大切なゴールとなります。

てお送りすることがアウトカムになると思います。

阿部 老健では頻回に血液検査ができないので、栄養ケアのアウトカムを数値化することは難しいですね。急性期病院から来られた方々の入所が多い当施設ですが、在宅復帰をめざす場合の栄養ケアのアウトカムは、食事の姿勢の保持が可能かどうかなど、日々のADLの変化を追っていくことが多いと思います。

大久保 ADLの低下を防ぐため、入院させ

ないことが当施設における栄養ケアのゴールですから、アウトカムも誤嚥性肺炎や排便障害、脱水など、食事や水分が安全かつ確実に摂取できれば防げる入院を減らしていくことになりま。誤嚥性肺炎を低減するため、食事形態の調整や食事介助を工夫するなど環境調整を行えば、適正な栄養量を充足することができ、脱水のリスクも少なくなる……。排便もなるべく自然排便を促し、便秘と下痢を繰り返させない。これらのリスクは密接に係っていて、適切な栄養ケアを行うことでリスク連鎖を断ち切れるのです。もちろん、それは管理栄養士が1人でできることではありません。多職種に對

し、なぜ食形態を調整しなければならぬのか、どのように食事介助すればいいのかなどを丁寧に説明し、ラキシベロンの低減率などのアウトカムデータを示すことで栄養ケアに

来春ダブル改定のゆくえ

——来年度は、診療報酬と介護報酬のダブル改定が行われます。

森 来年度の診療報酬改定では、退院後の施設や在宅に移られた患者さんに対する栄養管理のフォローアップが評価されることになるかもしれません。私たち急性期病院の管理栄養士も、老健や特養でどのような栄養ケアが行われているのかを知り、たとえ短い間でも



埼玉医科大学国際医療センター
栄養部主任・NST事務局 NST専従管理栄養士

森 ひろみさん

対する意識が高まり、モチベーションの向上につながります。栄養ケアの改善プランを提案したら、その結果をデータ化し、スタッフ全員で共有することが大切ですね。

退院先の施設にとってメリットになるような栄養管理を実施していかなければならないと痛感しました。

阿部 現在、通所サービスを利用されている方々に栄養ケア・マネジメントを行い、栄養マネジメント加算を算定しています。具体的には、通所サービをご利用者のご家族に了解をとって栄養ケア計画を作成し、モニタリン

グしながら栄養評価していきます。常時、10数人に対して算定していますが、入所されている方々の栄養ケア・マネジメントや経口維持加算と並行して行っているの、かなりの負担になっています。こうした在宅の方々に対する取り組みが評価され、管理栄養士の配置加算につながるとうれしいです。

大久保 ただし、管理栄養士を配置するだけ、計画書を示すだけの加算では意味がありません。貴重な社会保障費が財源なので、国民の皆さんに納得いただけるような成果につなげていけるよう、われわれ栄養経営士が頑張らなければなりません。

栄養経営のスペシャリストをめざし、さらなるレベルアップをはかる！

日本栄養経営実践協会

関東支部研究会 開催

日本栄養経営実践協会関東支部では、栄養部門にかかわる多様な課題を地域で解決できる人材の育成と、問題意識を持った栄養経営士同士のネットワークづくりを目的として、研究会を開催しています。講義で学び、ディスカッションにより理解を深め、交流を通じて新たなネットワークを築ける場として、ぜひご参加ください！

参加者募集

11月16日(木) 19:00~20:30

テーマ:「医源性サルコペニア」をつくらないための栄養士と看護師のリハ栄養
「医源性サルコペニア」をつくらないために、リハ栄養実践を、看護師と一緒に考えてみませんか？

講師: 古谷房枝先生(千葉県千葉リハビリテーションセンター・教育担当 副看護部長)

受講料 日本栄養経営実践協会会員: 1,000円(税込)
その他一般: 3,000円(税込)

会場 株式会社日本医療企画もとみやセミナールーム
(東京都千代田区神田東松下町17もとみやビル3階)

※講師に聞きたいことなどの質問事項も、事前に受け付けます。

講義後、ディスカッションを開催いたします。講師の先生をはじめ、参加された皆様による情報交換などを通してネットワークを深めていただければと思います。ふるってご参加ください！

【お問い合わせ・お申し込み先】 一般社団法人日本栄養経営実践協会関東支部(日本医療企画関東支社内) TEL03-3256-2885(担当:子安)

国民の栄養白書 2016-2017年版

最期まで自分らしく生きる
命の栄養ケア

介護栄養の時代

監修

『ヘルスケア・レストラン』栄養企画委員会

企画・制作

ヘルスケア総合政策研究所

- B5判並製／186頁
- ISBN978-4-86439-590-8 C3047
- 定価:本体4,000円+税

国民の栄養白書 2017-2018年版

最期まで自分らしく生きる
命の栄養ケア

介護栄養の時代



目次

巻頭特別鼎談 在宅で生きる、在宅で食べる

佐々木 淳×戸原 玄×江頭 文江

第1部 最期まで口から食べる「経口維持」の取り組み

- 第1章 経口維持と介護保険
- 第2章 リハビリテーションと低栄養への対応
- 第3章 高栄養食と経口維持
- 第4章 看取りにおける経口維持の意義

第2部 入院しないための「誤嚥性肺炎」予防の取り組み

- 第1章 誤嚥性肺炎予防につながる3つのケア
- 第2章 栄養ケアと食事の物性
- 第3章 口腔ケアと咀嚼機能
- 第4章 肺炎防止の呼吸リハ

第3部 転倒予防と「リハ栄養」の取り組み

- 第1章 骨折と寝たきり予防のリハ栄養
- 第2章 骨折予防につながる転倒予防の栄養学的アプローチ
- 第3章 リハ栄養と中鎖脂肪酸の活用
- 第4章 安静のリスクと自分らしく生きるリスク

第4部 排便コントロールと自分らしく生きる尊厳

- 第1章 排泄ケアと高齢者の尊厳
- 第2章 オムツゼロで目指す尊厳を守るケア(医療編)
- 第3章 オムツゼロで目指す尊厳を守るケア(介護編)
- 第4章 経腸栄養と排便コントロール—PHGGの活用

付録 現場で役立つアセスメントツール

最新版『国民の栄養白書2017-2018年版』発刊

超高齢社会のめざすべき
命の栄養ケアがわかる!!

最期まで人間らしく生きることを支える栄養ケアとは?

最新版『国民の栄養白書』のキーワードは、「介護栄養」です。フレイル・サルコペニア・ロコモシンドローム等、近年、高齢者の栄養状態にスポットを当てた研究が進み、多くの高齢者が低栄養状態にあり、ほどなく身体状況の悪化により寝たきりの状態に陥ることが解明されています。

その一方で、適切な栄養ケアとリハビリテーションにより、高齢者の生活に重きを置いた「プラスの栄養ケア」へと転換しようとしています。

で家族と食卓を囲んで語り、楽しい時間を過ごすことができるよう、その願いを叶える栄養ケアを本書では、「介護栄養」と定義づけています。

「経口摂取」「自立排泄」「リハビリ」に関する各専門家を中心に、「介護栄養」の最前線で活躍する17人の医療人が、人間の尊厳を重視した、正に命の栄養ケアの大切さを論じます。超高齢社会のめざすべき栄養ケアの明日と、管理栄養士が担うべき使命が本書にあります。

経口摂取

自立排泄

リハビリ

が守る人間の尊厳!

日本栄養経営実践協会 情報掲示板

セミナー情報

栄養士のためのスキルアップセミナー in 大阪
～糖尿病・腎臓病の栄養食事指導を再考察しよう!～

株式会社日本医療企画は、「糖尿病・腎臓病重症化対策」にスポットを当てた2部構成のセミナーを開催します。セミナーでは、「栄養食事指導」に関する最新情報を発信するとともに、日常業務における疑問点などに講師が答える質疑応答コーナーを設け、参加者のスキルアップをサポート。受講特典として『栄養士ダイアリー2018』を贈呈、糖尿病や腎臓病に考慮した食事の試食付き。

○日 時：11月26日(日)11:30～16:00

○講 師：山本國夫氏(大手前大学健康栄養学部教授)

松岡幸代氏(オフィスクレセール 管理栄養士)

○会 場：大和ハウス工業株式会社本社2Fセミナールーム(大阪市北区)

○参加費：日本栄養経営実践協会会員5,000円、一般6,000円

○定 員：100名

○お申し込み：ホームページ(<http://www.jmp.co.jp/seminar/nutritionist/skillup/2017oosaka/>)○お問い合わせ：株式会社日本医療企画
TEL:06-7660-1761(担当:喜津木)

北海道支部

“惑星直列”観察ツアー(全6回)

診療報酬・介護報酬の同時改定、第7次医療計画、第7期介護保険事業(支援)計画など、重要施策が一斉にスタートする2018年度は医療・介護の大きな節目の年であり、“惑星直列”とも呼ばれています。「“惑星直列”観察ツアー」では、NB lab代表の神内秀之介氏が、最新情報と重要事項を時系列で徹底解説。各施策にどう向き合っていくかを検討していきます。

○日 時：毎月第4金曜日 18:30～20:00

11月24日(金)、12月22日(金)、1月26日(金)、2月23日

(金)、3月23日(金) ※第1回は終了

○講 師：神内秀之介氏(NB lab代表)

○会 場：日本医療企画北海道支社セミナールーム(札幌市中央区)

○参加費：日本栄養経営実践協会会員1000円(各回)、
一般1,500円(各回)

○定 員：30名

○お問い合わせ：日本栄養経営実践協会北海道支部
TEL:011-223-5125(担当:緑川)